

3 「わかった」「できるようになった」～ねらいに即した適用問題の設定

<テーマ>「ふりかえり」を書かせることを通した振り返る活動の工夫(涌谷町立涌谷第一小学校)
 <例>4年「概数の表し方」

◎ 本時の学習の流れ

本時のねらい…四捨五入の意味とその方法を理解する。(2/8)		☆ポイント
1 導入	○ 前時の「ふりかえり」の紹介 ○ 1263人と1825人をおよその数で約何千人と表そう。 ○ 問題を解く。 ○ 話し合いを通して、「四捨五入」や「切り上げ」「切り捨て」の意味を知り、その方法をまとめる。 (途中、前時の「ふりかえり」の紹介) ○ 適用問題を解く。 ○ 「ふりかえり」を書く。	○ 導入や問題・課題把握の場面で、前時の「ふりかえり」を紹介することで、前時の学習内容を想起させたり、前時と本時の違いに気付かせるためのきっかけとしたりする。
2 問題・課題把握		○ 解決やまとめの場面で、前時までの「ふりかえり」を紹介することで、考えを深めさせたり、既習事項や次時へのつながりに気付かせたりする。
3 自力解決		
4 集団解決		
5 まとめ		
6 適用問題		
7 本時の「ふりかえり」		

◎ 指導者の働き掛け

① 「四捨五入」という言葉を使って、今日の勉強で分かったことや気付いたこと、がんばったことなどを書きましょう。	☆ポイント
	○ キーワードを示し、それを使わせることで、「ふりかえり」の内容が本時のねらいとずれないようにする。(認知面) ○ 分かったことだけでなく、学ぶよさや学習への取組のよさにも気付かせる。(情意面)

◎ 児童の「ふりかえり」の例

① 四捨五入は4以下なら捨てて、5以上なら入れるということが分かりました。例えば、1499は1000に近くて、1501以上なら2000で、さらに1500は2000ということが分かりました。	学習内容を自分の言葉で再構築している(認知面)	わかった!
② 0, 1, 2, 3, 4は小さく見て、5, 6, 7, 8, 9は大きく見る方法を四捨五入ということが分かりました。数直線がなくてもがい数で表せるようになりました。	数理的処理のよさに気付いている(認知面)	
③ 数直線を見ておよその数を出すよりも、四捨五入した方がはやくできました。	自分の学習の取組のよさに気付いている(情意面)	できた!
④ 四捨五入という方法を習って、かんたんにがい数を表せるようになってうれしいです。		
⑤ 何回も手を挙げて、2回発表できました。練習問題も全部あたってうれしかったです。		
⑥ 四捨五入は百の位に目を付けて考えることが分かりました。	理解が十分でないところがある(認知面)	

次時へ生かす

◎ 次時の学習の流れ

本時のねらい…「四捨五入して○の位までの概数にする。」ときの表現や四捨五入の仕方を理解する(3/8)		☆ポイント
1 導入	○ これらの「ふりかえり」の紹介 ① 昨日の「ふりかえり」を紹介します…。 ② 昨日は、百の位の四捨五入についてみんな考えましたが、四捨五入は百の位だけなのか、考えてみましょう…。	○ 単元を通して、児童に「ふりかえり」を発表させたり、指導者が紹介したり、掲示したりすることで、友達の「ふりかえり」を共有させ、学習のどんなところに目を付ければよいのか、どのように学習に取り組むとよいのかに気付かせていく。
2 問題・課題把握		